

スポーツ庁が部活動の地域移行に関する検討会議の中で、公立中学校の休日の部活動を民間スポーツ団体等に委ねることについて、令和5年度から3年間を改革推進期間とすることを提言しました。

その後、語句の変遷、追加がありました。将来にわたってスポーツとか文化に親しむための持続可能な環境を整えなければならないという事情に変わりはなく、これらのことが提言された背景には、3つ程度事情があると思っております。

1つは学校の事情です。これまでは中学生は全員が部活動に入って指導の下で部活に汗を流すというのが当然でした。授業後も学校に残り教員の下で活動するという、効率的な方法で活動が行われていましたが、これは教員の働き方の犠牲の上に成り立つものです。また、教員の減少に伴い、南部中学校の剣道部は新規加入を2年前から停止しています。

2つ目は子どもの事情です。小学5年生の女子児童から、中学校にダンス部を作ってほしいという市民の声がありました。本市では、地域で楽しくダンスしている子どもが多いのですが、中学校にはダンス部がありません。この子は中学生になってもダンスに打ち込みたいと思っておりますが、中学生になると、学校の都合で開設された部活動に加入し、土日も大会等で忙しくなるので中学生まででやめることとなります。今のスポーツや文化の環境は、子どものニーズに合っていないという事情があると思えます。

3つ目は地域の事情です。地域スポーツにいても所属団体は年々減りつつありますし、スポーツ少年団も年々減少しています。過去には岩倉市が県大会に出場していましたが、今はできなくなっています。

学校、子ども、地域の3つの事情が重なり、地域移行という問題が浮上しています。一方で、小中学生が新規会員として加わったビーチボールバレーは、他の競技とは一見して違う活気がありました。高齢の方まで駆り出され、嬉しそうにしている光景も目にしました。地域移行がうまくいけば、三方良しの状態となることを感じた事例です。

日本のスポーツや吹奏楽などの文化部も、主に学校の中で発展してきた歴史を考えますと、部活動が学校の外に出るのは歴史的に大きな変化です。指導者や施設、大会運営、会費、保険など様々な問題がありますが、本市では実情に応じた連携ができると思っています。活発な議論をお願いいたします。

3 会長、副会長の選任

資料1の順に自己紹介を行った後、要綱第4条の規定により有尾委員を会長に、今井委員を副会長に選出しました。

会長、副会長挨拶

会長：各方面の皆さんとの連携なくして、子どもたちの明るい未来はないと思えます。

子どもたちの明るい未来に向けて有意義な話し合いを積み重ねたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

副会長：中学生は非常に大事な時期なので、思い出に残る時間を大切にしたいと思います。良い運営の仕方をして岩倉モデル等大切なものを作り上げたいと思えます。

4 議題

(1) 部活動の現状と課題について

事務局：資料2に基づき説明

委員：別紙1の数字訂正です。バスケ部男子の人数は1年生18人、2年生6人、3年生14人が正しく、合計38人です。加入率に影響はありません。

(2) 部活動に関するアンケート調査結果について

事務局：資料3に基づき説明

委員：小学生の部活動において希望の1位がパソコンというは我々世代とは相違しています。また、野球、サッカーが想定外に少なく、運動系では卓球、文科系では美術が多く、ダンスは想定内でした。

県立高校においてもeスポーツが正式に学校の看板として立ち上がった学校もあると聞きました。そういう時代になっていると思います。

アンケート回答の部活動と残業時間については、解説をお願いします。

委員：勤務時間は午前8時15分から午後4時45分までの7時間45分。休憩45分がその間に入っています。それ以外の時間を在校時間といい、一般でいう残業です。教員に残業手当はありませんので、国は在校時間を月45時間以内に納める方針です。部活動は午後4時45分以降も実施することがありますので、在校時間となります。休日出勤も勤務時間ではなく在校時間となります。

国が在校時間45時間以内と言っているので、学校としても少しでも減らせるよう考えており、在校時間が長い人には、聞き取りをしながら偏りがあれば改善するよう指導しています。

委員：教員の給料は国の補助を含めた県費からであり、市町村の自由ではない印象です。

委員：夏の大会など休日出勤で手当ては出ますか。

委員：1日3時間程度を超える場合に2,700円の手当が出ます。

委員：平日の午後4時45分以降の部活動には手当てはありません。

委員：部活動が活発なところと、そうではないところが今後の課題となると思います。

教員が率先して部活動を行うことで生徒も付いていき、教員への信頼も得てどんどん上達していくと思います。

県大会や東海大会まで出場すると保護者も期待して長時間や休日の活動を要求されることもあります。今まで強かった学校でも教員が変わった途端に弱くなったとか、強いところの教員が来た途端に強

くなったなど様々です。教員の異動を含めて人にもよると思います。

このアンケートからは、今後、強くなればなるほど、残業代が嵩むから強くなるなって言われていると感じている気がします。残業代が支給されるのなら頑張るという方向に繋がると思うが、教員の内心はわかりません。

保護者からあの教員はやらないと思われてしまうのが嫌で、渋々出てくるという教員も出てくるような気がします。

委員：休日すべてをつぶして部活をやるよりも、限られた時間でやったほうが結果を出せた経験があります。やる気を含め、限られた時間の中でどうするかという考え方を学んでいければと思います。

部活動で結果を残してきましたが、教員の本分は部活ではありません。保護者がもし部活動について過剰な要求をしてくるのであれば、本業ではありませんが、できる範囲内で力を出し切りたいと思ってやっていますと対応しています。

委員：効率のよい練習は必要であるが、練習方法がわからないという生徒が結構います。今後、地域移行した場合、教員の指導内容と、部活動指導員の指導内容で違うというのが、少し怖いと思います。

指導内容が違うと子どもが迷ってしまうため、教員と部活動指導員との連携等が必要だと思います。

委員：県のガイドラインで規定しています。教員は転勤があるため、学校と地域とが連携をしっかりとっていくことが重要です。

委員：要請があった場合は手伝いをしたいと思っています。一定の指導力を持った人を選出するため、地域移行の希望がある部活は早めに教えてください。

委員：教員の本分は部活動の指導ではなく、授業を中心とした学校生活、また、子どもたちの健全な育成が本分です。

教員の心身の健康は、子どもたちが健全に教育を受けていくことにつながるため、働き方改革は急務です。

委員：岩倉中学校の美術部は今100名ぐらい在籍しています。

かつての部活動のイメージとは違って、趣味嗜好の延長線上にあると捉える必要があると思います。現場の若い世代の教員が部活動をどう捉えているかを含めた上で、部活動の扱いを考えていく必要があります。子どもたちは頑張っていてやっていますので、それに応えたいという気持ちもあります。

実際にどうしていくのかは、ここで議論していただければと思います。

(3) 学校として地域に求めることについて

事務局：資料4、別紙1、別紙2、資料5に基づき説明

委員：今年度より週3日以上の部活動休業日を設けています。平日は月曜日を全部活動休業日とし、もう1日は全面的練習ができるようグラウンドや体育館の調整をしています。朝の練習は原則として実施していません。最終下校時刻も前倒しました。

美術部は88名が在籍しているが常時活動している人は50人ほどです。所属なしという生徒も各学年15人程度います。学校外のクラブに所属している生徒もいます。

当面、市に取り組んでほしい事項として3点あります。

1点目は、引率できる部活動指導員をお願いしたい。

2点目は、子どもたちの受け皿を地域全体でという考えについて理解を深めていきたい。

3点目は、試行しているが、少人数の部活動は合同練習を含めて、大会出場も考えていきたい。

委員：部活動は本市の方針とほぼ同様に実施しています。陸上部や駅伝部はないため、部活動後に希望制で集まった生徒を対象に活動しています。冬の夕方の活動時間がない場合は朝の練習も実施しています。

当面取り組みたいこととしては、人数が少ないので合同練習を実施していきたい。地域で活動している各種団体と今後、どういった地域移行、地域連携ができるのか見ていきたい。剣道部の入部がゼロで推移しているが、指導できる教員の数も少なくなってきたのが現状です。

委員：部活動サポーターは学校でこれまで協力をしていただいていた外部の指導者の方です。本市から謝礼を支払っていますが、子どもの管理監督は教員の専権事項という考え方で、部活動サポーターが単独で指導することはしていません。

部活動指導員は専門性が高く、学校の方針も理解した上で、子どもの管理監督や引率も単独行うことができることを想定しています。

部活動サポーターに、大会等で代行としてベンチに入ってくださいとあります。

(4) 地域移行・地域連携に向けての意見交換

委員：本日の会議で方向性を示すものではありません。多くの意見をいただきたいと思っています。率直な意見をお願いします。

委員：岩倉市民吹奏楽団は、休日に両中学校の吹奏楽部に参加しています。別の仕事を持っている人もいるため、平日の活動は難しいです。土日が仕事の人もいます。

中学校卒業後に岩倉市民吹奏楽団に入る生徒もおり、小中学生は無料で研修員として参加できるようにしています。

休日に任せられるのであれば、鍵や責任者などの責任区分が課題になると思います。最優先は子どもたちの活動で、色々な課題は出ると思うが協力していきます。

委員：部活動指導員となる場合の資格の整備が必要だと思います。スポーツ全般の基礎体力や体の動か

し方、メンタルの部分についても協力できる人が必要です。怪我をしない体づくりの必要性も感じます。

活動方針や考え方の問題もあり、子どもたちの意向もあると思います。依頼があってから派遣を始めていくと思いますが、入っていくタイミングも難しいと思っています。

委員：過去と比較し部活動の数が少なくなっていると感じています。

岩倉南野球スポーツ少年団では、指導者はセミプロの方たちばかりで、熱血指導をされています。

スポーツでも文化でも、各分野にセミプロの方がいるので、マッチできていない分野があればぜひ活用していきたいところです。

委員：教員の働き方改革の一端であれば、部活動は切り離すしかないのではないかと考えています。

部活はやったことが無いことへ気軽に参加できることがメリットだと思っています。小学校で野球をやった子どもたちが、中学校ではバスケットやテニスができるという良さがあると思います。地域移行でどう変わっていくのかが気にかかります。

アンケートについて、指導者が教員から地域に変わることに、よくわからないというのが一番多数でした。子どもたちにどう伝わっているのか伺いたいです。

事務局：特に何の説明もせず、アンケート用紙のとおり実施しました。

今は大人だけで話し合っていますが、当事者である子どもたちの意見の反映について、アンケートだけでいいのかどうか、その辺りのところも考えていただければと思います。

委員：たくさんの指導者が埋もれているとか、働き方改革として部活動を切り離すしかないとか、部活動の位置づけとしてやったことのない活動に触れるチャンスでもあるなど様々な角度からの大変興味深いご意見をいただきました。

働き方改革で切り離すしかないというのは、もっともだと思いますが、日本中学校体育連盟の大会に向かって子どもたちは活動をしているため、切り離せない状況です。これまでは先送りになってきましたが、上手に整理して着地点を見つけていきたいと思っています。

委員：教員になった当初、バスケットボール部の担当になりましたが、バスケットボールには不向きであったため、苦痛でした。休日に外部コーチが来て、技術指導をお願いし、休日にコーチが教えたことを平日に確認して進めることにしました。外部の方と上手に連携ができたことにより、結果としていい思い出となりました。

アンケート結果では、現状に満足している教員は一定数います。昔に比べかなり改善されてはいます。ここから更に改善するのであれば部活動は平日1時間のみにし、それ以上に活動したい生徒はクラブチームでの活動とし、他の生徒は、勉強や休憩の時間に充てるとよいのではと考えています。教員の働き方改革につながり、子どもたちも部活動ができるという案です。

将来的に参加できる団体がたくさんあることは、強みであると思います。

最近、モルックというスポーツを子どもと一緒にやったら自分も子どもも楽しめました。選択肢があれば色んなものに参加できるし、その中から自分でやりたいものを見つけ、大人になっても継続できるという未来があってもいいと思います。

部活動の枠を超えて、地域に根付いているものに自由に参加できるとよいと感じています。

委員：専門は美術ですが、過去に野球部を任された当初、ノックも打てず、夜まで練習をしてできるようになったことで信頼関係が生まれた経験があります。6年間野球の顧問をしましたが、やりきれたのは、保護者が休日に指導に来ていただけたからです。助けてもらいながら保護者とも信頼関係が生まれて、私自身も野球が好きになりました。

私の親が教員で今でも民間のジュニアオーケストラ、シニアオーケストラを自分で立ち上げて指揮者をしています。好きで親がやっているもので、それを応援したいなと思いつつも、休日にいないということ子どもながら非常に寂しく感じていたことがあります。

資料を見てこれだけの民間の受け入れ先があるのかと思うと、早く子どもたちに紹介したいと感じます。

委員：自分から新たなスポーツへ飛び込んでいける子たちばかりではありません。家庭の事情も含めて地域のスポーツに参加していくのには壁があります。子どもが参加しやすい環境、学校を通じて参加しやすい状況にしていきたいです。壁がある子どもたちが入れるようにするには、地域のスポーツ団体がいったん学校へ入ってもらって子どもたちと繋がると行きやすくなるのではないかと思います。上手に移行していくとか、連携していくというところに結び付けていきたいと思っています。

委員：中学校の部活動を外部に移すのではなく、顧問が少ない関係で生徒の選択肢が少なくなり選びたくても選べない状況を避けたいと考えています。学校の中で実施していたものを少し広げて選択肢を増やし、岩倉市の活動に繋がるようにしていくことを柱にしたいと思います。

平日に地域の方に来てもらうのは難しいと思います。平日は、月曜日以外にもう一日部活動休みとしています。その日に地域の活動に参加したり、色々なことにチャレンジしたりできるような選択肢を増やせる状況にしていきたいです。

中にはずっとサッカーや野球をやりたい生徒もいます。クラブチームに行くなり、今の時代はネットで検索して自主練習することもできます。それ以外にも音楽を聴く時間にするのもよいです。選択肢を増やしていくことが必要だと思っています。

地域移行のことが新聞に掲載されることがあります。東京都日野市の日野スポーツの記事では、卓球クラブをやりたい子は来てくださいと募集し、そこに専門の指導者がいて初心者の子どもも楽しめる場を作ったということでした。

今までの部活動では、土・日や平日も部活動が常にあるため、地域に子どもたちが行くことができません。子どもたちが地域に行ける環境を作って選択肢を増やしていくことを、学校と地域が一緒になってやっていけるとよいと思います。

委員：適応指導教室おおくすで仕事をしています。月に1回、卓球協会の方に指導していただく機会があり、教えてもらった子は初めてでも上手にできるようになります。色んな体験をするチャンスを増やしていくのも大事なことだと思います。

委員：中学生に自主性を持たせるのも必要であると思います。

退職された先生は貴重な人材であり、そういう人を生かしていきたいと考えています。様々な事件もありますので、犯罪対策として管理の仕方が課題だと思います。

委員：昔の部活動は教員の指導のもとで生徒は練習をしていました。子どもたち自身に主体的に考える時間を与え、学校現場も子どもたちが主体となって考えられるよう指導していかなければならないと考えています。そうでなくては生涯スポーツにつながらないと思います。

委員：色々なご意見を頂き、一つ一つのご意見に刺激を受けました。またご協力をよろしく申し上げます。ありがとうございました。

事務局：本日の議事については終了とさせていただきます。ありがとうございました。